

憲法記念日

私はこう思う

平和が いちばん

2017年5月3日 発行



いずれも4月15日大阪
市扇町公園での大集会

本気でまじめに平和外交を 井上 由美

北朝鮮はミサイル発射実験、練習をくり返しています。失敗もします。威嚇の相手はアメリカです。日本ではありません。アメリカは完成した核弾頭つきのミサイルを約7000発保有し、各種の大量破壊兵器を山ほど持っています。ベトナム戦争では何十万人もの人々を無差別に殺し、アフガン戦争、イラク戦争でも何十万人もの人々を空爆や地上戦で殺しました。戦争の「きっかけ」は「イラクが大量破壊兵器を持っている」というウソでした。それらの国をめちゃくちゃにして「テロリスト」を生み出しました。どちらが世界の脅威かな？と考えます。北朝鮮は国連の場でも「アメリカと平和条約を結びたい」と意思表示をしています。なぜ話し合いのテーブルにつき話し合わないのでしょうか。平和を好まず戦争を好む人達（利益を得る人達）の意見と力が働いているのだろう、と考えます。愚かな「武力に武力で対抗する考え」の間違いに人類は早く気づかなければ、と考えます。ミサイルのねらう先には多くの市民の命、生活があるのです。そして何の解決にも至りません。平和憲法を持つ日本はどちらに付くのではなく「話し合いで解決！」の先頭に立ち世界をリードすることではないか、と考えます。テロにも狙われません。

飛行機雲 藤田

先日、一週間ほど田舎に帰ってきました。とてもよく晴れた青空に二本の飛行機雲が流れ、静かな光景です。私は硬くなってしまった畑を小型の耕運機で耕していました。二度引きしないと耕運機は土の中を掘り返してはくれません。悪戦苦闘です。全身に力を込めて傾く機械を押さえながら「私、よく頑張っている」と自画自賛しました。こうした何でもない生活が幸せなんだと思うようになりました。自分の意志で決めたことをする。誰にも私のささやかな生活を脅かされない。私も他人の生活を大切にしたい。しかし昨今の国民に選ばれたとする人々の発言や行動は目に余りません。庶民のささやかな希望とあまりにもかけ離れていて許せません。

学校現場で感じること考えること

福山

枚方の中学教員として、丸33年。連休前には必ず担任している子どもたちに宛てて、憲法特集の学級通信を発行している。最近子どもだけでなく若手の同僚からも「勉強になります」という言葉をいただいているが、「護憲」にこだわる教員が今どれぐらいいるのか、いささか不安になる。大阪府警の機動隊が沖縄の人を「土人」呼ばわりしても、淀川区の教育勅語暗唱幼稚園や豊中の小学校が問題になっても、その根底に流れる本質まではなかなか論点にされにくい。そうして来年、再来年には「道徳」が教科化される。どれだけ安倍政権が危機を煽っても、憲法が国民を守る本当の盾であることには変わらない。自衛隊が憲法違反の軍隊であることに変わりはない。私たちの感性まで「ど疎く」なりたくはないものである。

現政権に物申す くずはサンクロウ

憲法記念日が来ると憂鬱な気分になってしまふ。それは年々右傾化の風潮が顕著になってくるからだ。近隣諸国からの攻撃を煽り、国民の生命・財産を守るための軍備の増強をはやし立てる。戦争の手立てしか選択肢はないのか。72年前の敗戦を期に現憲法が結実し平和が保たれてきた事を忘れてはいないか。

現政権は原発再稼働、武器輸出三原則のなし崩し、海外派兵、「共謀罪」など書きだせばきりがなし。憲法で保障された生存権、人格権、生活権など法の下での自由・平等の本質が変質しつつある。その本質が沖縄の基地闘争であぶり出される。戦争のための基地は“ノー”と民意が選挙で示し司法の場でも主張しても全て退けられる。

残された手段は身体を張った抵抗しかない。安倍政権は法の解釈を詭弁と隠蔽を駆使して抑えつけにかかる。「共謀罪」はまさに強権発動であり、捜査当局の仕打ちに拍車をかけるものである。私たちは歴史の分岐点に立っていることを自覚しなければならない。

憲法前文から感じること

大田 英俊

原稿を書くに際し、世界各国の憲法前文を列挙したHPを見つけて読んでみた。

神、自由、防衛といった言葉が多いことや、一方で、中国、北朝鮮、韓国、ロシアなどは、その国の闘争の歴史、憲法成立の過程を長々と記していたりして、実に様々。

改めて、日本国憲法前文を読んでみた。

この理念が実現できたら、本当に素晴らしい国、明るい未来を描ける国になるのに、と感じた。ミサイル、核問題等で、再び強硬な憲法改正論のプロパガンダが行われることになり、単純に、なぜ今のままでダメなのか？と感じた。直面する現実には確かに厳しい。武器はない方が良く決まっているが、我が国は、今でも自衛のための、決して弱い戦力を持っていると思うのだが。

私たちが国家の優位にいないければならない訳は何ゆえか

小倉 百合子

『戦後を生きる意味』という著書の中で鶴見俊輔は次の様に述べています。「…どんなに私が狡知を巡らしたところで…自分の全力をあげても、30人以上こころすことは、ほぼ不可能でしょう。しかし、大国の国力をもってすれば、30人どころか、途方もない膨大な人数の殺傷が可能である」と説き、さらに「私たちは国家指導者ほどの悪をなしえないということの故に、私たちの方が倫理的に優位に立っている。そのことによって私たちは、自由に国家指導者を批判できる立場にいる」とつづけています。そもそも憲法は、国家権力が孕んでいる暴力性を制御するために、つまり国家が悪をなさないように歯止めをかけるために、歴史の叡智の結晶として編み出されました。今、それを破壊しようとする「改憲」の動きがわざわざと蠢き、それを現実のものにする機会を虎視眈々と狙っています。非力な私たちが、「ひとらしく」毅然と生きるためには、絶対この「改憲」へ流れを許してはならないのです。



憲法違反の「共謀罪」法案

手塚 隆寛

「共謀罪」法案が国会で議論されている。法務大臣がまともに答弁でない法律は内容以前に提案すべきでない。共謀罪を適用するためには事前に組織や個人を内偵し監視しなければならない。日常的にメールやラインも盗聴され、ある日突然に逮捕拘禁されることになる。あなたも私も誰もがいつ犯罪者にされるかわからない。思想、信教、通信、結社の自由を保障した憲法違反である。

安倍内閣は戦争をする国づくりへ憲法改悪に先立ち「戦争法」「秘密保護法」を強行成立させ、次は「共謀罪」法案だ。

ものが言えなくなっただけでは遅い。憲法が保障した民主主義を活用して「共謀罪」法案を廃案に。憲法は黙っていれば壊される。私たちの不断の努力がいまこそ試されている。

戦争につながるすべてに NO！

手塚 美子

「おかしいことはおかしい」と、あきらめないで声を上げ身体を動かす！

- ① アラカシの森 150 本の木を切って美術館を建てようとしたが、中止まで公園に足をはこんだ！ 香里が丘図書館の運営に指定管理者制度導入はおかしい！
- ② 原発の理不尽さに対して、避難者との交流、福島子どもたちの保養キャンプを枚方で取り組み続けるゾ！
- ③ 税金は市民のためにこそ使わせたい！ 1100 万円の議員報酬があるのに第2の報酬—政務活動費年84万円はいらない。廃止まで声を上げ続けるゾ！

市民が「読みたい」と望む本を

「読ませない」枚方市立図書館

駒木根淑子

私たちが日々享受していると思っている「健康で文化的な生活」、この当たり前の生活が、真綿で首を絞められるように、じわりじわりと脅かされつつあります。香里ヶ丘図書館建替え問題を機に、私は自治体の行政が住民の権利を本当に守ろうとしているのか、頭を抱えたくくなるような現実と直面しています。

地方自治を支える民主主義、そしてその民主主義の「砦」と言われる図書館が、この小文のタイトルにあるような貸出拒否をしていることを、情報開示請求者から教えられました。明らかに憲法の「知る権利」の否定です。

戦争への道をひた走る日本。安倍政権の「悪行」もここまで来たかと思わせる「共謀罪」法案。図書館の変質もこれらの動きと一体と思えてなりません。

【願 い】

澄海

私は 生きたい。

これから先も この国で この街で 家族と一緒に生きていきたい

私の大切な家族をしっかりと守りたい

娘の笑顔为谁にも奪われたくない

「教育勅語」を唱和する幼稚園がマスコミで報道された

同じ幼稚園児を持つ親として すごく疑問に感じた

いろんな考え方の人がいるのだけれど

我が子に 『有事の時には 国の為に命を捧げる』と言わせていることに何も感じなかったのだろうか？

我が子に 『嫌なことがあれば暴力で解決なさい』と言うのだろうか？

そのために 『命がけの戦い』もしなさいと教えるのだろうか？

この国は どんどん軍事力を増やしている

『やられる前にやる』のでもなく

『武器を持って相手を威嚇する』のでもなく

【憲法9条を守り 武力をもたず 平和外交で 他国と結び付く】

そんな国になってほしい

子どもに『暴力ではなく言葉で気持ちを伝える』と教えるのと同じことだから

この国を戦場にしたくない

誰も殺し 殺されたくない

銃を構えて訓練する人たちも誰かの大切な存在

そんな人たちを戦場に行かせたくない

この国が戦争をする国になろうとしているなら

それを 自分たちが全力で止めなければ

いつか自分たちの大切な家族が戦場に行ってしまう未来がやってくる

戦争がどこか遠い国の話ではなく 自分の身近な話になってしまう

私は自分の出来ることから 始めていきたい



原発は憲法違反！！

井上 浩

原発はもともと原爆の原料であるプルトニウムを製造するために造られたもので、核兵器製造と一体のものです。日本国憲法の9条2項の「陸海軍その他の戦力は、これを保持しない」の「その他の戦力」は戦争に使われるものを意味するので、原発は「核兵器の製造・保有・使用の潜在的能力」で「他国に対する潜在的核抑止力」になり、「その他戦力」に該当すると考えられ、原発は9条違反になる。

世界で原発を禁止している国がある。オーストリア、パラオ、ミクロネシア。コスタリカは憲法で原発を禁止してはいるが、最高裁判所が「平和の価値」や「健全な環境への権利」を侵害するとして違憲無効とした。

原発は潜在的な戦力とともに、放射能汚染による生命権、幸福追求権、環境権、平和的生存権など様々な人権侵害を引き起こし、日本国憲法に抵触する。

憲法記念日に思う

H・I

「日本は昔持っていた主権がない。アメリカの衛星国であり人質なのである」。悲しいことにこれが現実です。しかし日本には憲法9条という世界に誇れる素晴らしい宝物があり、これを盾に日本人は守られ世界にも貢献し尊敬されてきました。この宝物があったからこそ長く平和を維持できたのです。

そもそもテロの危険が大きくなったのは「戦争が出来る国」に方向転換しようとしている安倍首相に原因があります。

①時の政権に決して惑わされてはいけません。

②武器商人の存在を忘れてはいけません。

③憲法9条はいつの時代にも通用し有効に働きます。

憲法9条は日本だけでなく世界に届けなくてはならないと思います。未来の地球と子どもたちのために・・・命同様に大切な9条を死守しましょう。

戦後の初心を忘るべからず

松田 久子

先日、新聞の投稿欄の『「新日本建設の詔書」一読を』という記事に目が留まりました。1946年元旦、官報にだされた昭和天皇の詔書とあり、「民意をのびのびと育て、官民あげて平和主義に徹し」また「わが国では家を愛したり、国を愛したりする心が熱烈である。今やこの心を広げて、人類愛の完成に向けて、献身的努力をするときである」との内容が紹介されていました。

今国会で議論されている「共謀罪」法は民意を封じ込め委縮させるものであり、脅威をあおったり緊張をつくり出す政治は、「人類愛」どころか排外主義を強め、「献身的努力」のかけらも感じられません。これを読んで、余りにも真逆の事をやっている今の安倍政権に改めて怒りを感じました。



アベ一強体制を崩すのは国民の責任だ！

柳下 祥一

戦後73年目の現在、我が国は再び戦争前夜の危険な局面にある。アメリカ追従の軍拡路線、世界の歴史と現状に眼をつむった外交、憲法違反の法案の強行採決、ますます悪化する沖縄諸問題、戦前回帰の世情、展望なき原子力行政、等々枚挙にいとまがないほど最悪の状況である。

多くの国民は、経済成長や雇用、社会保障ばかりに眼を向け、我が国がかっての悪しき歴史を繰り返そうとしている事を真剣に考えていない。安倍一強体制を支えているのはこの国民自身である。

野党がダラシナイのは困ったものだが、我々国民自身が惰眠から覚めスマホ奴隷から卒業し、安倍自民党政権の危険な本質を早く正しく見抜き、「アベ No!」の行動を起こさねばならない時である。

自民党改憲草案を読んで

梅澤 幸子

国家権力を縛るのが憲法なのに、いま国家権力を握る自民党が変えようとしている。

2012年に公表された「改正草案」では、前文の「日本国民は」が「日本国は」に変えられ、「恒久の平和を念願し」が削除されている。第12条13条では、「公共の福祉に反しない限り」が、「公益及び公の秩序」に変わっている。

また緊急事態条項が新設され、総理大臣などにより強い権限を与えることで独裁に走り、人権が軽視されるのではと危惧する。

憲法の規定が法律や条例では

柳井 直躬

今年の3月、「政務活動費」制度廃止の請願を枚方市議会に提出、審議はされたが賛同の総務常任委員会委員は皆無で、あっさり不採択となった。本会議でも賛成の議員は手塚議員だけだった。

私は憲法の請願権を利用したつもりでしたが、議会事務局に請願文をチェックしてもらったところ、「地方自治法124条及び枚方市市議会規則132条により」の文言を入れるように指導された。議会事務局との摩擦を避けるためには従わざるを得なかった。

憲法16条には「何人も損害の救済、公務員の罷免、法律、命令又は規則の制定、廃止又は改正はその他の事項に関し、平穩に請願する権利を有」とある。一方、地方自治法、枚方市議会規則では「議会に請願しようとする者は、議員の紹介により請願書を提出しなければならない」とある。

憲法で「何人」と保障されている請願権が法律や条例では条件付き。その条件は見方を変えれば、一種の口利きの奨励であるとも言える。議員とのつながりを持たない市民をシャットアウトしているのだ。知らず知らずのうちに憲法は骨抜きにされていると思う。

大物政治家S・A氏の独り言

基ノ本風太郎

家内も失言する奴も言い訳が下手や。とっさの対処があかん。緊張感が足らん。国民も平和ボケや。俺は親父みたいに平和主義者とも違う。母方の祖父が手本や。戦後レジームもだいたい消えたし。俺は勉強はきらいやったけど、親より大物になった。世界の中心で光るには新憲法と軍備も欲しい。党内も大手企業もアンダーコントロールした。共謀罪も少し野党に譲って最後に勝つ。メディアはもっと外国に焦点をあてな。それが報道の使命や。但し党の支持率には注意や。電通を更に頑張らす。離婚して学園衆院解散しよか？

護憲の努力を不断に続ける

大田 幸世

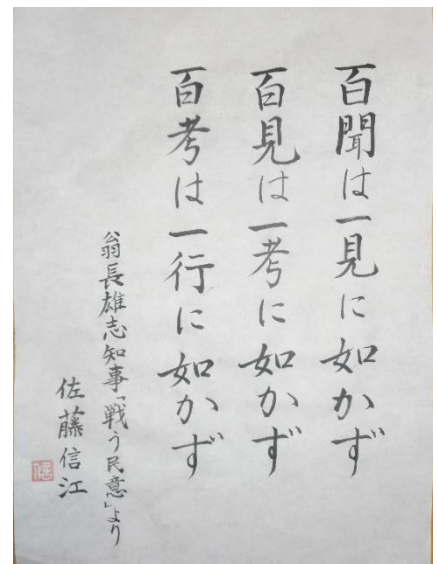
「平和がいちばんやで、沖縄行ったことあるよ」と若い人の声、「沖縄基地建設反対署名」を集めていた時のことです。若い人は5年後10年後の自分の問題として、現在の社会の変化を確実にとらえています。

国政の影響を受け、身近なところからも憲法破壊が進行しています。職業講話の授業に、人殺しの訓練をする自衛官を招く枚方の中学校。そのことに対し「自衛隊も公務員だから問題ない」と疑問をもたない市長、教育長。図書館施策に市民の知恵をいかすことを受け入れない枚方市の「住民を信頼しない」姿勢。市民を管理の対象とのみ見ていると感じさせる職員と出会うことも増えました。前の大戦では、市町村職員が「赤紙（軍隊が個人宛に召集する令状）」を各戸に配っていたといいます。自治体が戦時体制に組み込まれる前に「戦争をする国づくり」の動きに抗する町にしなければと思います。

交野～くずは～枚方～寝屋川（京田辺）という憲法記念日の市民リレー行動は、「平和がいちばんー憲法特集号」を配布しながら10回を超えています。

護るべき憲法をもつ私たちは、本当に幸せです。先人に感謝し、この幸せが長く続くように、「努力を継続する」ことを憲法記念日に決意しています。

翁長雄志知事「戦う民意より」
佐藤 信江 書



武力で平和はつukれない 鈴木 めぐみ

米軍トップが「平和は武力によってもたらされる」と語っていた。私は凍りついてしまった。「武力で平和はつukれない」と常に心に留めて暮らしてきた私には、驚きの言葉だった。武力による戦争で何ひとつ良かったものは無い。全てのを焼き殺してしまう戦争。勝っても負けても憎しみの連鎖しか生まれない。そこに命や文化はあるのか？人間として誇りを持って生きることを次世代に伝えることができるのか？私は声を大にして「否」と言う。私たちは戦争の無い平和な世界をめざす努力を怠ってはならない。それには「戦争は嫌だ」と言い続けることだ。

今日の憲法の日。私たちの憲法は幾多の先人の努力によって、犠牲によって守られてきたものです。仕事をする、結婚をすることすら自由にできない、ましてや思想や信仰を持つことも自由にならなかった時代があったのです。命を懸けて自由のために闘って下さった普通の人たちがたくさんいてくださったことを心に記したい。

国会では「共謀罪」の審議が始まった。私たちの自由や権利が奪われようとしている。今こそ「戦争は嫌だ。自由に生きたい」とご一緒に！

寓話

佐藤 謙司

村のはずれに手付かずの土地がありました。誰も見向きもしない荒れ地でした。欲深いカゴイケ爺さんが耕してみると、ゴミがいっぱい出てきます。これでは駄目だとあきらめかけましたが、神様からお告げがありました。「秘伝の肥料“アキーエ”をまくがよい」。「神風が吹いた」と爺さんは喜びました。早速、なかなか手に入らない“アキーエ”を役人に袖の下を使い手に入れ、撒きました。すると、あーら不思議、ゴミだらけだった畑はきれいに整地され、その上タダ同然の値段で手に入れることまでできました。めでたし、めでたし。

なお、後世の考察では、その肥料“アキーエ”は土地にではなく、土地を守護していた役人たちに効いていたそうです。

今日は憲法記念日です

黒田 薫

憲法と言うと私たちの生活と関わりのないもののように思っておられる方があられるかもしれませんが、私たちが安心して活き活きと暮らす毎日の生活を国に約束させているのが憲法です。憲法は国が国民に命令しているのではなく、国民が国に約束させているのです。

憲法には個人の尊重や、思想・表現の自由、男女平等、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利、拷問の禁止など数多くの約束がありますが、安心して生きるための最大の約束は再び戦争をしないことです。

しかしこの間の安倍政権をみると、戦争法で「日本がアメリカ軍と共に戦争に参加出来るようにし」、共謀罪で「反対世論を弾圧し」、挙句の果ては安倍首相夫妻が深くかかわっていたとされる森友学園で園児たちが暗唱させられていた教育勅語です。「いざ戦争が起これば天皇のために喜んで命を捧げる」ことを求めているのです。

我が子や孫を兵士として死なすことができるのでしょうか。日本人だけではありません。イラクやアフガンのように外国の子ども達を殺すことにもなります。こんな未来を私たちは望んでいるのでしょうか？私たちが何よりも望むのは平和であり、一人一人の命と暮らしを大切にすることです。

今の状況に不安や危機を感じてられる方は多いとおもいます。しかし、テレビの前で嘆いたり怒ったりするだけでは解決しません。みんなの声を大きく繋ぎましょう。韓国の民衆が街頭に出て「ろうそくデモ」で朴大統領を退任させたように！

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 黒田 薫 (平和都市ひらかたを考える市民の会)

鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)

奥村 秀二 (弁護士)

おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)

事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)

スタッフ 松田 久子 (「すずらんの集い」代表)

〒573-0027 枚方市大垣内町2丁目8-27 シンエービル別館A

市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX: 072-846-8780

メールアドレス: hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp

ホームページURL: <http://hiratkatasiminnokai.jimdo.com/>